

平成28年訪都旅行者の実態調査

●東京都を訪れる旅行者の実態を調査

東京都では、観光産業振興に向けた施策を推進するための基礎資料として、毎年、訪都旅行者数、観光消費額の推計に関する実態調査を行っています。この度、平成28年の結果が発表されましたので、主な内容についてみていきます。

●東京を訪れた外国人旅行者が過去最多に

「平成28年東京都観光客数等実態調査」は、東京都における平成28年(1月～12月の1年間)の観光入込客数(旅行者数)、観光消費額および観光の経済波及効果を推計したものです。

具体的な調査結果をみると、平成28年に東京都を訪れた外国人旅行者は約1,310万人(対前年比10.2%増)、日本人旅行者は約5億1,430万人(同0.5%減)。

訪都外国人旅行者数は、東京の観光PRや、旅行者の受入環境整備等の官民をあげた取組、諸外国における経済成長、平成26年以降の中国および東南アジア諸国の査証発給要件の大幅な緩和措置の影響が続いていること等により、過去最多となりました。一方、訪都日本人旅行者数は、旅行志向の縮小や旅行先の分散化等の影響で、減少しました。

観光地点や行祭事・イベント別観光入込客数(延べ)を算出するために、観光関連施設、イベント実施団体に対し、入込客数や宿泊客数などを調査した「観光地点等入込客数調査」をみると、観光地点の観光入込客数(延べ)は、約11億1,300万人(同2.9%増)、行祭事・イベント観光入込客数(延べ)は、約5,785万人(同1.3%増)でした。

また、観光入込客数および観光消費額を推計するためのパラメータを設定するため、観光地点および島しょ地域への出入り口において実施した「観光地点パラメータ調査」によると、一人あたりの平均訪問地点数は、観光目的の宿泊客で、都内在住者が3.3(同0.7増)地点/人回、道府県在住者が4.8(同1.1増)地点/人回、外国在住者が6.8(同2.7

増)地点/人回でした。

●観光消費額は約5.7兆円

訪都旅行者が都内で消費した金額(観光消費額)は約5.7兆円(同4.6%減)、このうち外国人旅行者の観光消費額は約1兆880億円(同2.4%減)であり、前年と比べ、ともに減少しました。

訪都外国人旅行者の観光消費額は、円高の進展、中国人旅行者の消費額の縮小等の影響を受けて減少し、訪都日本人旅行者の観光消費額は、旅行者数の減少や消費意欲の低下等を受け、減少したとみられています。

また、一人あたりの平均消費額をみると、観光目的の宿泊客で都内在住者が42,322円(同1,471円増)、道府県在住者が33,456円(同588円減)、外国在住者が91,766円(8,710円減)でした。

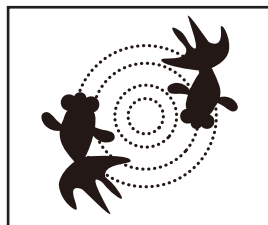
●10月から12月までの調査結果

さらに、平成28年10月～12月の期間について、観光入込客数の合計は約1億2,667万人(対前年同四半期比2.6%減)、うち日本在住者数は約1億2,344万人(同2.8%減)、外国在住者数は約323万人(同6.8%増)でした。観光消費額の合計は約1兆3,599億7,200万円(同4.2%減)で、このうち外国在住者の観光消費額は約2,834億5,700万円(同0.3%減)。一人あたりの平均消費額は、観光目的の宿泊客で、都内在住者が42,249円(同445円減)、道府県在住者が35,565円(同806円減)、外国在住者が97,839円(同7,211円減)でした。

「平成28年東京都観光客数等実態調査」のより詳しい情報については、東京都ホームページ(<http://www.metro.tokyo.jp/tosei/hodohappyo/press/2017/05/19/05.html>)より調査結果の全文をご覧ください。なお、同調査についてのお問い合わせは、産業労働局観光部企画課(03-5320-4723)までお願いします。

東京今昔物語475

夏の訪れを告げる風物詩、江戸川区の「金魚まつり」が近づいてきました。今年は7月22日(土)・23日(日)に行船公園にて行われます。江戸川区で金魚の養殖が始まったのは明治時代。元々是本所や深川が中心でしたが、大正12年(1923年)の関東大震災の後から金魚の需要が伸び、それを



明治から続く金魚のまち

契機に亀戸、大島などと共に本格的に養殖が行なわれるようになりました。現在は、養殖業者の数こそ減少したものの、金魚の品質は日本でもトップクラスだといわれています。「金魚まつり」には2日間で数十種類25,000匹の金魚が集まり、展示・即売や「無料の金魚すくい」も催されます。